

シンポジウム報告

アジア CliC ワークショップ —アジア雪氷圏データプロダクト—報告

海洋研究開発機構 大畑 哲夫
杉浦幸之助
矢吹 裕伯

1. 目的と概要

2009年3月29日から31日まで、中国・蘭州の中国科学院寒区旱区環境与工程研究所 (Cold and Arid Regions Environmental and Engineering Research Institute, Chinese Academy of Science) にて、アジア CliC ワークショップ—アジア雪氷圏データプロダクト— (Asia CliC Workshop on Asian Cryospheric Data Products) が開催された (図1)。これは2006年横浜での第1回アジア CliC シンポジウム (大畑ら, 2006)、2007年横浜でのアジア CliC ワークショップ—アジア雪氷圏の広域水文気象— (大畑・杉浦, 2007)、及び2007年蘭州での第2回アジア CliC シンポジウム (大畑・杉浦, 2008) に引き続くものである。

本ワークショップの主な目的は、アジアにおける積雪・氷河・凍土データを概観し、データアーカイブの作成を計画することであり、とりわけ1) 積雪・氷河・凍土に関するデータアーカイブの取り組み状況を確認すること、2) 入手可能なデータを確認して、カタログの作成に取りかかること、3) データレスキューのための計画を進展させることである。

本ワークショップは基本的にアジア CliC 推進の議論とそのとりまとめが中心であることから、当該分野でその国を代表する研究者のみを集めた非公開会議として開催された。CliC 国際事務局長の Daqing Yang 氏をはじめとして、中国、日本、キルギス、アメリカ、ネパール、ノルウェー、モンゴル、ロシアの8カ国から18名が参加した。日本からは大畑哲夫氏、矢吹裕伯氏と筆者の3名が

参加した。

初日のオープニングセッションでは、雪氷圏データの必要性と現状について発表があった。引き続き、積雪のセッションが設けられ、いつ、どこで、だれが、どのような要素を測定しているのかという情報を含めて、各国から積雪に関するデータが紹介され、その報告を受けて、広範囲にわたる議論が行われた。

2日目の午前は氷河に関するデータ、午後は凍土に関するデータについて各国から紹介があり、それに関する議論が行われた。

最終日は中国と日本のデータアーカイブの現状について紹介があった。

2. 成果と今後

3日間にわたる発表と議論から主に以下の事柄について承認された。

積雪データ作業部会を推進する中心メンバーとして、引き続きロシアの Vyacheslav Razuvaev 氏 (All-Russian Research Institute of Hydrometeorological Information—World Data Center) 及びアメリカの Tingjun Zhang 氏 (National Snow and Ice Data Center 及び Cold and Arid Regions Environmental and Engineering Research Institute, Chinese Academy of Sciences) が選任された。また新たに氷河データ作業部会と凍土データ作業部会も設置された。

さらに、各国の積雪・氷河・凍土データの取りまとめ担当者が選定され、各担当者はインベントリーを作成し、データカタログ作成のためにリス

トを提供することや、それぞれのデータポリシーも調査することが確認された。今回参加していないアジア各国に関しては、今後もデータカタログ作成作業を展開していくことで合意し、それぞれ担当者を検討しておくこととなった。

次回のデータ作業部会は、2010 年 8 月 12 日から 14 日まで、中国・麗江で CliC と IACS の国際合同会議として開催される「Cryospheric Changes and Influence — Cryospheric Issues in Regional Sustainable Development」にあわせて開かれる予定である。それまで、国際電話会議を頻繁に行うことで合意した。

なお本ワークショップの内容は、最終的に WCRP Informal Report として近々まとめられる予定であり、概要は WCRP/SCAR/IASC Climate and Cryosphere Newsletter (CliC International Project Office, 2009) から入手することが可能である。

3. 進捗状況

2009 年 11 月 4 日、海洋研究開発機構の主催で、アジア CliC データ作業部会の国際電話会議が開催された。アジア CliC ワークショップ—アジア雪氷圏データプロダクト—開催から半年を経過

し、フォローアップ会議として、日本、中国、ネパール、ノルウェー、モンゴルの 5 カ国 9 名が参加して情報を交換した。まずはじめにアジア CliC ワークショップでの活動を再確認した。また、積雪・氷河・凍土データカタログの作成に向けて、担当者が不在であるアジア諸国の担当者が検討された。さらに積雪・氷河・凍土に加えた新たな水文データのカatalog作成と、積雪データ作業部会からは観測所の積雪深データのみならず積雪断面観測データのカatalogも作成しようという提案があった。なお次回の電話会議は、2010 年 1 月に開催することで合意した。

文 献

- 大畑哲夫・矢吹裕伯・杉浦幸之助・市川節子, 2006: 第 1 回アジア CliC シンポジウム報告. 雪氷, **68**, 311–313.
- 大畑哲夫・杉浦幸之助, 2007: アジア CliC ワークショップ—アジア雪氷圏の広域水文気象—報告. 雪氷, **69**, 628–629.
- 大畑哲夫・杉浦幸之助, 2008: 第 2 回アジア CliC シンポジウム報告. 雪氷, **70**, 113–114.
- CliC International Project Office, 2009: The Asia CliC Data Workshop. Ice and Climate News, No. 12, 14.

(2009 年 11 月 29 日受付)



図 1 アジア CliC ワークショップ—アジア雪氷圏データプロダクト—の全体写真. 2009 年 3 月 29 日中国科学院寒区旱区环境与工程研究所にて.